

「非核平和学習会に参加して」

～私たちが学習会で学んだことや感じたことなどをお伝えします～

原子爆弾の恐ろしさ

湯本小学校 5年 ^{いだて}居館 ひかり さん

8月6日、私は広島で平和記念式典に参加しました。たくさんの人が参列していて驚きました。その日は快晴で、とても暑かったです。79年前も、このような暑い日だったのだろうかと思像してしまいました。

私は「平和とは何か」と聞かれたら、「自然」と答えます。自然は山や川があり、風が吹いて緑色の葉が「ざざー」とゆれる。私が住んでいる地域にある「釜淵の滝」のように水がキラキラ輝いている。草花は黄色やピンク色に咲いて、甘い匂いがする。夜になると、晴れた空には数えきれない星がキラキラ輝いている。美しい自然と、町の人みんなが笑顔で生活し、争いがないことこそが「平和」だと思います。79年前の広島も、きっと美しく笑顔があふれていたのだと思います。しかし、戦争と原子爆弾によって、町は一瞬にして地獄のような世界に変わってしまいました。

私は平和記念資料館で、原爆の威力や、そのすごさ、原爆に焼かれた人の服や帽子を見ました。今でも血の跡が残っていました。がれきの下敷きになっている人々が、「助けて」と叫び続ける声が今にも聞こえてくるようでした。原爆ドームは、元々は「産業奨励館」と呼ばれていて、広島の特産品などを展示したり、いろいろな催し物をしていた場所だったそうです。原爆によって骨組みだけになってしまった屋根の部分、ガラスが吹き飛んだ窓、ところどころに残っているレンガを見て、私はとても悲しい気持ちになりました。その姿はまるで、「原子爆弾は人を傷つけ、長く苦しめるもの」、「戦争は恐ろしいもの」だと訴えているようでした。

私は「みんなで平和をつくっていかねばならない」、「戦争は絶対に繰り返してはいけない」とみんなに伝えていきたいです。緑豊かな自然も、家族との時間も、友達と過ごす時間も、戦争はすべてを奪ってしまうからです。私は今ある「当たり前なもの」を大切に、これからも過ごしていきたいです。

非核平和学習会に参加して

石鳥谷小学校 5年 ^{よこさわ}横澤 ^{たいち}泰知 さん

ぼくは、非核平和学習会に参加しました。まずはじめに、原ばくドームに行き、ガイドさんから説明を受けました。原ばくは、とつ然落ちてきて広島市の人たちの生活をうばいました。原ばくが落ちたしゅんかんにはばく風で建物がこわれてたり、ほうしゃせんによるやけどやけがをおったり、たくさんの人が大きなひ害を受けました。そして、たくさんの人が亡くなったと聞きました。ぼくのような子どもたちもたくさんぎせいになったと聞きました。原ばくドームを見たり、その当時の話を聞いて、とてもこわいと思いました。

次に平和記念資料館に行きました。そこでは、亡くなった人たちのしゃしんや原ばくが落ちたあとの様子を表した絵、実際の曲がった鉄、とけたガラスびんなどを見ました。これを見て、ぼくは、原ばくのおそろしさを知りました。

世界ではまだ、たくさんの国で戦争をしています。家族や友人、小さな子どもたちがぎせいになっています。この学習会に参加してぼくは、あらためて戦争はよくないと思いました。そして、ヒロシマのようなぎせい者をふやしたくない、平和な世界をつくりたいと思いました。

そのためには、身近な友だちや親、おばあちゃん、おじいちゃん、しんせき、地いきの人など周りの人を大切にしようと思いました。困っている人がいたら助けたり、地いきの人に積極的にあいさつをしたりしていきたいです。

非核平和学習会で学んだことをこれからの生活にいかし、自分と周りの人の命を大切にしていきたいです。

非核平和学習会で学んだ事

八幡小学校 5年 ^{たかはし}高橋 ^{てんか}天花 さん

私は、8月5日と6日広島に行って平和記念式典に参加して来ました。

なぜ非核平和学習会へ参加しようと思ったかと言うと、自分の目で原爆ドームを見て、戦争のこわさを確かめたかったからです。

岩手も暑かったけど、広島の方が暑かったです。爆だんが落とされて、一気に町は焼けてなくなり、火の熱さはもっと熱かったと思いました。核兵器はとてもおそろしいと感じました。私が思っていた戦争はこわいと思っていただけで、現実には想像以上に悲しくて、こわくて言葉に表せないと思いました。

核兵器と言う一つの爆だんだけで沢山の町が無くなるなんてとてもひどい事だし、何万人もの命が無くなるのもひどいと思いました。

原爆の子の像を見ました。折りづるを持った女の子の像でモデルになったのが当時6年生の佐々木さだ子さんです。12才の時に原爆による白血病で入院して、つるを千羽折れば病気が治ると信じつるを折り続けたそうです。今の私くらいの年で死んでしまった事を知って、まだまだやりたい事があるのにくやしかったと思ったし、かわいそうだと思います。病室で折りづるを沢山作って亡くなったと知りました。平和記念公園には沢山の折りづるがありました。今では年間千万羽の折りづるがさがされているそうです。それを見て、戦争がない事を世界中の皆が願っていると思いました。

核兵器は作ってはいけないと思います。戦争で世界中の皆の命がなくなったり、町もなくなり心と体に大きなきずが残ると思いました。

戦争のない、核兵器のない、友達とけんかしない平和な世界がいいです。そして、学校に通えること、友達と遊ぶことをあたり前と思わないで「ありがとう」の気持ちを忘れずに生活をします。

ぼくが感じてきたこと

桜台小学校 6年 ^{おぼら}小原 ^{やまと}大和 さん

ぼくたちは、非核平和学習会で広島に行ってきました。

ぼくが参加しようとしたわけは、もともと戦争などのことに関心を持っていて、ずっと広島の資料館や原爆ドームに行って学びたいと思っていたからです。

ぼくが実際に行ってみて、ぼくが感じたのは戦争の悲さんさです。原爆の被害の大きさや被害にあった人は、どのような生活を送っていたのかがわかりました。そして、資料館で被爆した人の写真や絵を見て、核は、こんなに怖いものだとなり、原爆の怖さと、たくさんの命が失われる戦争はなくなってほしいと思いました。

原爆ドームでは、被爆する前にどんな建ものだったのか、の説明を聞き、みんなが買いものをしたり、楽しむ場所だったと知りました。一つの爆弾でこんなに大きな建ものも一しゅんで壊れてしまう事におどろきました。

ぼくには、どのような事が出来るかを考え多くの人に知ってもらうために、しっかり戦争や原爆で起こった事や被害者の方の様子などをみんなに、伝えていきたいです。そして、今、世界で戦争や、紛争が起きている国がまだあり、多くの人の命が失われないように平和が一番大切ということを気づいてほしいです。

想像を超える現実

桜台小学校 5年 ^{かわむら}川村 ^{にこ}虹心 さん

私は、国語の教科書で「たずねびと」という広島に原爆が落とされたことについての話を読みました。そのことから、原爆ドームや原爆にまつわるものを自分の目で見たいと思い参加しました。

平和学習会に参加して心に残っていることが三つあります。

一つ目は、原爆の落ちた場所が原爆ドームではなく、南東160メートルの上空約600メートルでさく裂していたことです。それにも関わらず、銅でできている原爆ドームの屋根が、とけていて、原爆のい力の大きさが想像以上に大きかったです。

二つ目は、ガイドの方がおっしゃっていた言葉です。「原爆は、小さな太陽くらいの熱さで、人々は近くにあった川に水を求めて歩いて行ったけど、力つきてしまいと中で命を落としてしまったんですよ。」この言葉を聞いて、被爆者の「苦しみ」や「つらさ」が自分の想像を超えるおそろしい現実でした。

三つ目は、平和記念式典での子ども代表の「平和への誓い」の言葉です。

「願うだけでは、平和はおとずれません。一人一人が相手の話をよく聞くこと。『ちがいを』を『良さ』と捉え、自分の考えを見直すこと。仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。」

この言葉を聞いて、私でもできる平和への一歩だと思いました。世界のみんながこの言葉を実践すれば世界が平和になると思いました。

私がおどろいたことは、平和記念式典の参加者の4割ほどが海外からの参加だったことです。原爆が投下されて、79年たった今、やっと世界の人々が原爆について、きょう味を持ってくれていると思いました。これからは、もっと日本だけでなく、世界中の人々に広島で起きた現実や原爆のおそろしさを知ってもらいたいです。

私は、花巻にもどってきて、まず身近な人に今回学んだことを伝えました。そしてさらに、家族や友達と平和のとうとさや命の重みについて語り合いたいです。

平和学習会で学んだこと

矢沢小学校 5年 柴田^{しばた} 統李^{とうり} さん

ぼくは、平和学習会に参加しました。参加しようと思ったきっかけは、速報で北朝鮮からミサイルが発射されたとテレビのニュースで話しているのを聞いて、「いつも自分の所に落ちないな」と思っているけど広島では原爆が落とされたことがあるので、それを自分の目で見て知りたいと思ったからです。行ってみたいと思ったけど、応ぼだったので、行けることになった時はビックリしたし、説明会に行き、親が行かずぼくだけで行くことにもビックリしました。

原爆ドームや記念館を見学した時、とても見るのがこわかったです。ぼくは、広島に行く2週間くらい前に左足にやけどを負ってしまいました。とても熱くて痛かったです。ぼくはやけどを負ったのは、一部だけど、原爆が落ちた所にいた人はあんな熱くて痛い思いを全身に感じていたと思います。ぼくはすぐ病院に行ったけど、周りにそんな人だったら誰も助けてもくれません。原爆の放射線で細ぼうが戻れずに死んでしまい、だつもうしょうやガンにもなると知りました。想像もできません。

記念式典では、岸田総理を見ました。そこではたくさんの人が原爆を忘れないでいることがとても大切だと思いました。

広島はとても暑かったし片道7時間もかかって遠かったけど、一緒に行って仲良くなったり、大事なことを学んだりできて、とても良い経験になりました。家や学校でも学んできたことをみんなに話したいと思っていました。またいく機会があったら行きたいです。

非核平和学習会に参加して

大迫小学校 5年 阿部 瑠愛 さん

私は、8月5日と6日に「非核平和学習会」に参加しました。

参加したいと思った理由は、私は戦争や原爆をあまり知らなかったので、実際に広島に行き戦争の怖さや、平和の大切さを学びたいと思ったからです。

広島平和記念資料館では、けがをして治りようをもらっている人の写真や、原爆でもえてしまった三輪車を見ました。一しゅんでこのような状況にしてしまう核兵器のおそろしさを知ることができました。

非核平和学習会に参加したあと、私は広島でおこった戦争や、原爆ドームについて調べました。たくさんの方が亡くなったり、生活の場を失ったのを知りすごく悲しい気持ちになりました。また、今でも放射能をうけたことで苦しんでいる人もいると知り、おどろきました。

戦争の怖さや、多くの悲しみを知ることができました。

式典では、もくとうをしたり、広島市長やそうりだいじんの話を聞きました。

今回、この学習会に参加してよかったです。

なぜかという、実際に戦争の怖さなどを体感できたからです。

今回学んだことを、みんなに伝え、戦争や核兵器で苦しむ人がいなくなってほしいと思いました。

戦争のこわさ

宮野目小学校 5年 おだしま 陸宇^{りくう}さん

原爆とはどういうものなのだろう。

原爆やかく兵器という言葉はいろいろな本の中にも出てきており、その時代の中で一番い力の強いものを書いてありました。本当にそこまでのい力があるのかと思い、今回、参加しました。

ぼくが思っている戦争は、してはいけない戦いやたくさんものを失ってしまうということです。広島は、その戦争の中で、世界で初めて原子爆弾が落とされた場所というイメージがとても強いです。

実際に平和記念資料館へ行き、爆弾のい力でボロボロになった服やくだけちった岩、とけた三輪車を見て、思った以上の破かい力におどろかされました。その他にも家族が死んでしまったショックや、戦争のきょうふや絶望で自さつをする人がいた事も学びました。それほどもう生きていけない、死んだ方がいいとおいつめられる状きょうだったのだろうと想像し、ぼくはとてもこわく、かなしい気持ちになりました。

今回の学習会に参加し、原爆のい力を知る事もできましたが、ぼくが一番おそろしいと思った事は人の心もこわし、絶望においこむ物だという事を学びました。今、平和にくらせているのは戦争をした経験からなのだと感じています。もう二度とこわく、かなしい気持ちにならないようぼくができることは、今回学んだことを伝え、広めみんなで平和をつくっていくことだと思います。

非核平和学習会に行って学んだこと

東和小学校 6年 おばら 琉貴^{りゅうき}さん

ぼくは、一泊二日の「非核平和学習会」で広島に行って来ました。

8月5日の朝に出発し、広島に着いたのが15時頃でした。

着いてすぐ、ホテルに荷物を置いて、原爆ドーム、平和記念資料館の見学をしました。

二日目に、平和記念式典に参加しました。

広島は、岩手よりも人が多く、暑くて大変でしたが、とても多くの事を学ぶ事が出来て、ぼくにとっていい経験になりました。

特に印象に残っている事が三つあります。

一つ目は、原爆の被害です。爆心地から4キロメートル以上はなれた所でも家が壊れる被害が出ました。他にも爆心地付近では熱線によるヤケドや爆風により建物は全て壊れたという事実を知りました。

二つ目は、放射線による人体の影響です。主な病気は、白血病やガンで、多くの人々が亡くなりました。その他にも生まれてくる子供にも体や知的障害があったりと、今も多くの人が病気で苦しんでいるという事です。

最後は資料館の見学です。色々な写真や物が展示してありましたが、あまりにも悲惨な物ばかりで、ぼくは手が震えて改めて戦争、原爆の恐ろしさを実感しました。

ウクライナやイスラエルでは今も戦争が続いています。自分達と同じ年の人が食べ物がなく、学校に行けず毎日おびえながら生活しています。早く戦争が終わり、核を作らない持たない、皆が平和に生活出来る世界になれば良いと思います。

「戦争は二度とくり返してはいけない。」

と強く思います。

ぼくはこの非核平和学習会で学んだ事を多くの人に伝えていこうと思います。